



新渡戸記念 中野総合病院 だより

Nitobe Memorial Nakano General Hospital

5月号

平成30年5月1日号

東京医療

住所 東京都中野区中央四丁目59番16号

TEL 03-3382-1231 (代) 夜間受付 03-3382-9991

ホームページ <http://www.nakanosogo.or.jp> E-mail soumu@nakanosogo.or.jp

第347号

発行人/理事長 入江 徹也

発行責任者/総務課長 横井 悟

開かれた「新渡戸脳研」をめざして

新渡戸記念中野総合病院 神経内科臨床部長 兼 脳神経研究室「新渡戸脳研」室長 内原 俊記

生前にアルツハイマー病と臨床診断された患者さんでも、亡くなられた後に解剖させていただき顕微鏡で脳を観察すると、アルツハイマー病とはいえない例が3分の1程度含まれているといわれています。こうして1例1例確認することが、診療や研究の原点となります。

当院でも認知症やパーキンソン病の患者さんが多数おられ、不幸にしてお亡くなりになった場合は解剖をお願いし、検討会を毎月続けてきました。前職の東京都医学総合研究所では脳の顕微鏡観察を中心とした研究に従事しましたが、当院で解剖された100例以上の脳を検討させていただく機会に恵まれました。

今後は当院で脳の検討も行うことになり、新たに「新渡戸脳研」を設置していただいたことは先月の本紙でご紹介があったとおりです。その御縁で脳研責任者として今回入職させていただきました。開設にあたり、多くの方々のご理解とご支援を頂戴し、誠にありがとうございました。このように患者さんの診療と脳の顕微鏡観察の両方が可能な施設は大学病院でも一部に限られ、民間の医療機関ではほとんど例がありません。私自身も神経内科を中心に診療にも参加させていただきますが、その場で顕微鏡観察までできるというこの恵まれた環境は、パーキンソン病や筋萎縮性側索硬化症等、他の難治性神経疾患の診療や研究に大きなインパクトを与える可能性を秘めています。

また、中野区には高い意識をもって専門性を高め

ている在宅医の先生方が多数おられます。在宅でお看取りとなった方でも、「新渡戸脳研」で同じように脳を顕微鏡で観察できれば、診療や研究を深めることができると考え、当院神経内科の融 衆太部長と一緒に在宅剖検事業「おだやかな看取りを明日に活かすみち」を展開してきました。お陰さまですでに30例を超える実績があり、新聞や業界誌*でも紹介されるようになってきました。すでに診療では地域連携が進んでいますが、脳の観察も地域の先生方と一緒に進めることができれば、地域連携は研究へも深まります。実際、中村診療所の中村 洋一院長、三五医院の三五 美和院長、さくらクリニックの佐藤 志津子院長など地域の先生方が学会筆頭演者、論文共著者として貢献してくださっています。

知識や経験がなくても、脳の形や染色した標本が美しいことは、直ちにわかります。経験や職種を問わず、興味のある方はどなたでも脳を観察できる場に「新渡戸脳研」をしたいと思います。研修医や他科の先生、在宅医の先生方はもちろん、看護職、医療技術職、事務職の方々もどうぞご遠慮なく新渡戸脳研を覗いてみてください。近寄り難いと思っていた脳や神経疾患をより身近なものと感じていただくだけでも、当院の医療はより良く、医学的にも深いものになると思います。職員の皆さん、お待ちしております。

*平成30年3月13日付「産経新聞」

<http://www.sankei.com/life/news/180313/lif1803130037-n2.html>

平成29年4月3日付「週刊医学界新聞」

http://www.igaku-shoin.co.jp/paperDetail.do?id=PA03218_03

ニューフェイスです!

新任医師紹介

4月1日から当院に新たに13名の医師と、
7名の臨床研修医が着任しました。
どうぞよろしくお願いたします!



神経内科臨床部長 兼 脳神経研究室
「新渡戸脳研」室長
内原 俊記



外科
木村 宗貴



整形外科医長
萩尾 慎二



整形外科
吉田 龍



皮膚科
近藤 麻代



耳鼻咽喉科
小山 雄太郎



腎臓内科医長
萬代 新太郎



腎臓内科(専攻医)
篠遠 朋子



循環器内科部長
武井 秀信



循環器内科
矢田 沙和子



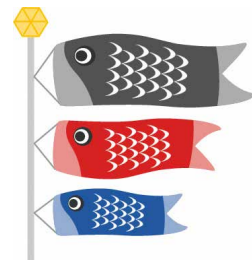
神経内科医長
銭谷 怜史



神経内科
町田 容子



神経内科(専攻医)
天野 稜大



1年目の
臨床研修医



亀山 啓吾



小泉 友紀暁



千葉 慶太郎



土居 秀基



原 有梨香



穂坂 伸吾



八巻 春那

再診は予約制です

2017年12月から、再診は原則“予約制”となりました。診察が終わりましたら、医師から次回診察の「予約票」をお受け取りください。

次回の診察は、「予約票」に記載された日時となりますので、この予約時間より著しく早い時間帯に受付をされても、予約時間より早い診察にはなりません。また、予約時刻を過ぎないように受付をお願いいたします。

*診察前に血液検査のある方は検査結果が出てからの診療となりますので、予約時間の30分～1時間前に受付・検査をお願いいたします。

予約をされていない方でもこれまでどおり診察は可能ですが、お待たせすることもございますので、ご理解のほどお願いいたします。また、予約が済んでいる方で「予約日の変更」をご希望の方は「予約変更センター」へお電話をお願いいたします。

予約変更センター ☎03-6382-6601

(受付は平日の14時30分～16時30分)

*初めての方・前回の診察から期間のあいた方など、新規のご予約はお電話ではお受けしていません。直接ご来院いただき、受付をしていただきますようお願いいたします。

5月の小児救急体制



新渡戸記念中野総合病院では、中野区並びに中野区医師会のご協力を得て、小児の初期(1次)救急として「準夜間小児初期救急医療」を救急外来で実施しています。

一般診療所の診察時間が終わった後、お子さまが急病の際には、下記の夜間受付電話にご連絡のうえ、ご来院ください。15歳以下のお子さまを対象に、小児科医が診療を行います。

*血液検査、点滴等の処置、入院等を必要とする場合は他病院を紹介します。

5月1日から31日までの準夜間小児初期救急医療体制は下記の通りです。なお、都合により医師の変更もあり得ますので、ご了承ください。ご不明な点は、下記夜間受付にお問い合わせください。

受付時間 毎日午後6時30分～午後9時45分

診療時間 毎日午後7時～午後10時

夜間受付 ☎03-3382-9991

5月準夜間小児初期救急担当医

日	月	火	水	木	金	土
		1 荻原 正明	2 村杉 寛子	3 亀井 宏一	4 清水 泰岳	5 保崎 明
6 右田 王介	7 小須賀 基通	8 高梨 栄	9 千葉 智子	10 木村 将裕	11 亀井 宏一	12 清水 泰岳
13 亀井 宏一	14 小須賀 基通	15 高田 功二	16 佐和田 哲也	17 堤 範音	18 清水 泰岳	19 右田 王介
20 右田 王介	21 小須賀 基通	22 多田 光	23 宇都 ちひろ	24 木村 将裕	25 右田 王介	26 清水 泰岳
27 清水 泰岳	28 小須賀 基通	29 細谷 直人	30 高梨 栄	31 堤 範音		

新渡戸記念
中野総合病院を支える

職場紹介

24時間いつでも必要な検査に対応してサポート 中央検査科

中央検査科技師 須藤 淳二

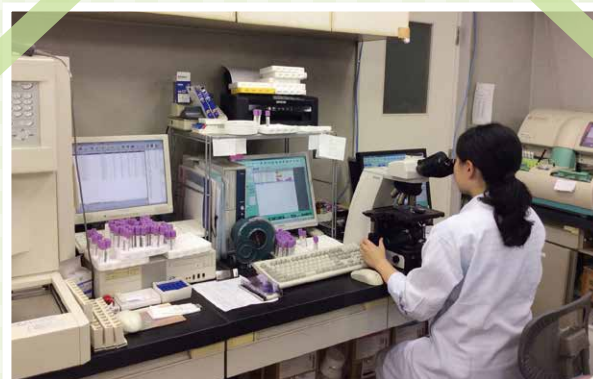
中央検査科は、臨床検査を通して各診療科の診療を支援する部門です。緊急時にも医師が必要に応じて検査を依頼することがあるため、緊急項目に24時間365日対応できるように休日や夜間は日当直体制で勤務しています。

臨床検査は医師が病気の診断補助として、治療方針や治療効果を確認するための手段のひとつとして、また日帰りドックなど健康診断や区民健診にも用いられています。

検査は主に2つに分かれます。患者様に直接接触して行う生理機能検査と、患者様から採血、採尿、組織など直接取り出した試料を測定する検体検査。医師の指示により生理機能検査と検体検査を実施し、医師に報告する部門が中央検査科なのです。

現在20名の臨床検査技師が配属されていて、生理機能検査として心電図検査、心エコー図検査、呼吸機能検査、脳波検査などを、内科外来の前にある生理機能検査室で行っています。

また検体検査は、生化学・免疫検査、輸血検査、血液細胞検査、一般検査(尿、穿刺液など)、微生物検査、病理・細胞診検査と細かく分かれていて、各診療科や採



検体検査室

血室で採取された検体は地下1階にある検体検査室に届けられます。地下の検査室は患者様には公開されていませんが、多くの精度管理された分析機器や制御するパソコン、顕微鏡などが並んでいる中で検査を進めていきます。

今後は検査室の中だけでなく、当院の他部門・他職種とさらに協力体制を進めていきたいと思っています。依頼された臨床検査を私たち臨床検査技師一人ひとりが迅速に正しく行い、これからも有用な結果を提供して各診療科を支援し続けます。

新渡戸 の 言葉

今回は『修養』からの少し長めの抜粋ですが、新渡戸先生ならではの味わい深い文章です。先生が学んだ札幌農学校は、明治政府が建てた官立学校。西欧のパブリックスクールの如く(ハリーポッターのような)寄宿舎に住み、ナイフとフォークを使って洋食を食べ、構内では「英語」が常用語である高等教育学校でした。当時(17歳頃)に記された講義ノートは、すべて美しく流暢な筆記体の英文で書かれていて、立派な文体に感銘を受けます。

ちなみに当院の創立記念日は5月27日。もうすぐ創立86年になります。本分を守るfortitudeという言葉を楽しむしたいと思います。

新渡戸記念中野総合病院副院長 山根 道雄

普通、勇氣と称する力には二種類ある。行くほうの勇氣、**courage**は華美でやり映えがある。一方、行わずに堪えて堪忍袋の緒を締めること**fortitude**は、地味であり人目につかない。目の前にある名譽利益に目を向けず、本分を守ることが必要なときがある。しかし勇氣の量としては、華美で進取の場合と比べて、同じかあるいはもっと多いだろう。

新渡戸 稲造